

タスク・シフティング 推進に関するヒアリング

2019/7/17
-総合診療領域-

日本専門医機構

総合診療領域について

2018年4月より、
新専門医制度の開始に伴いに
「総合診療専門医」の養成が開始された。

総合診療（専門医）としての 専門知識について

総合診療（専門医）としての 専門知識について①

1. 地域住民が抱える健康問題には単に生物医学的問題のみではなく、患者自身の健康観や病いの経験が絡み合い、患者を取り巻く家族、地域社会、文化などの環境（コンテクスト）が関与していることを含めて全人的に理解し、患者、家族が豊かな人生を送れるように、コミュニケーションを重視した診療・ケアを提供する。

総合診療（専門医）としての 専門知識について②

2. 総合診療の現場では、疾患のごく初期の未分化で多様な訴えに対する適切な臨床推論に基づく診断・治療から、複数の慢性疾患の管理や複雑な健康問題に対する対処、更には健康増進や予防医療まで、多様な健康問題に対する包括的なアプローチが求められる。そうした包括的なアプローチは断片的に提供されるのではなく、地域に対する医療機関としての継続性、更には診療の継続性に基づく患者・医師の信頼関係を通じて、一貫性をもった統合的な形で提供される。

総合診療（専門医）としての 専門知識について③

3. 多様な健康問題に的確に対応するためには、地域の多職種との良好な連携体制の中での適切なリーダーシップの発揮に加えて、医療機関同士あるいは医療・介護サービス間での円滑な切れ目ない連携も欠かせない。更に、所属する医療機関内の良好な連携のとれた運営体制に貢献する必要がある。

総合診療（専門医）としての 専門知識について④

4. 地域包括ケア推進の担い手として積極的な役割を果たしつつ、医療機関を受診していない人も含む全住民を対象とした保健・医療・介護・福祉事業への積極的な参画と同時に、地域ニーズに応じた優先度の高い健康関連問題の積極的な把握と体系的なアプローチを通じて、地域全体の健康向上に寄与する。

総合診療（専門医）としての 専門知識について⑤

5. 総合診療専門医は日本の総合診療の現場が外来・救急・病棟・在宅と多様であることを踏まえて、各現場で多様な対応能力を発揮すると共に、ニーズの変化に対応して自ら学習・変容する能力が求められる。

総合診療（専門医）としての 専門技能について

総合診療（専門医）としての 専門技能について①

1. 外来・救急・病棟・在宅という多様な総合診療の現場で遭遇する一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な身体診察及び検査・治療手技。

総合診療（専門医）としての 専門技能について②

2. 患者との円滑な対話と患者・医師の信頼関係の構築を土台として、患者中心の医療面接を行い、複雑な人間関係や環境の問題に対応するためのコミュニケーション技法

総合診療（専門医）としての 専門技能について③

3. 診療情報の継続性を保ち、自己省察や学術的利用に耐えうるように、過不足なく適切な診療記録を記載し、他の医療・介護・福祉関連施設に紹介するときには、患者の診療情報を適切に診療情報提供書へ記載して速やかに情報提供することができる能力

総合診療（専門医）としての 専門技能について④

4. 生涯学習のために、情報技術（**information technology; IT**）を適切に用いたり、地域ニーズに応じた技能の修練を行ったり、人的ネットワークを構築することができる能力

総合診療（専門医）としての 専門技能について⑤

5. 診療所・中小病院において基本的な医療機器や人材などの管理ができ、スタッフとの協働において適切なリーダーシップの提供を通じてチームの力を最大限に発揮させる能力

総合診療（専門医）としての タスク・シフトについて

1. 現在医師が担う業務のうち移管可能と考えられる業務
2. 業務移管した際の質の確保対策について
3. タスクシフト推進に関する課題について

日本専門医機構内の設置されている

- 総合診療領域専門医検討委員会、
- 同ワーキングなどで

総合診療領域の状況（総合診療医（専門医）数や複数領域にまたがる診療業務など）の実態把握し、状況を確認した上で、上記委員会などにおいて検討を行う。関係団体からもご意見を伺う。